

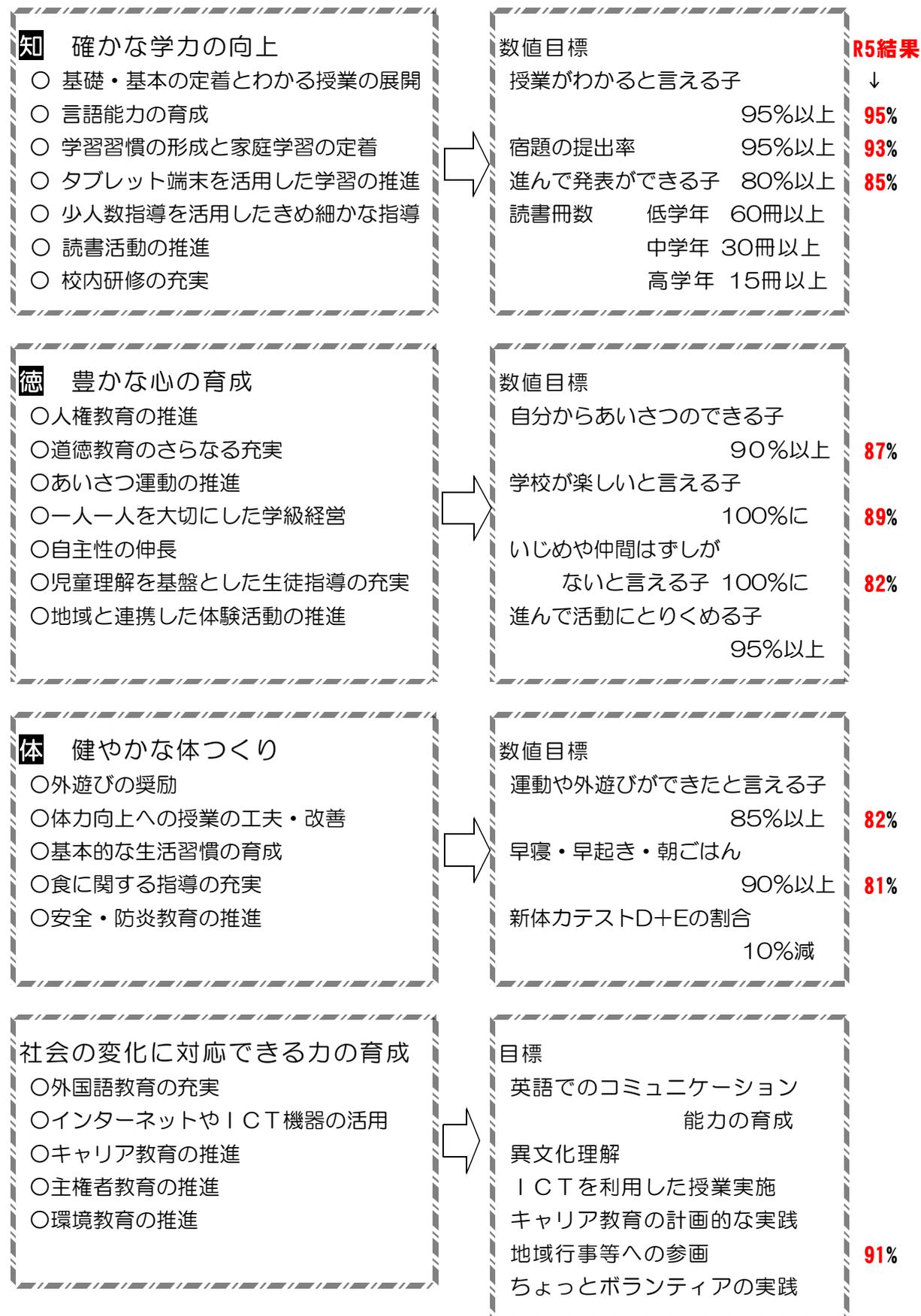
令和5年度

学校評価



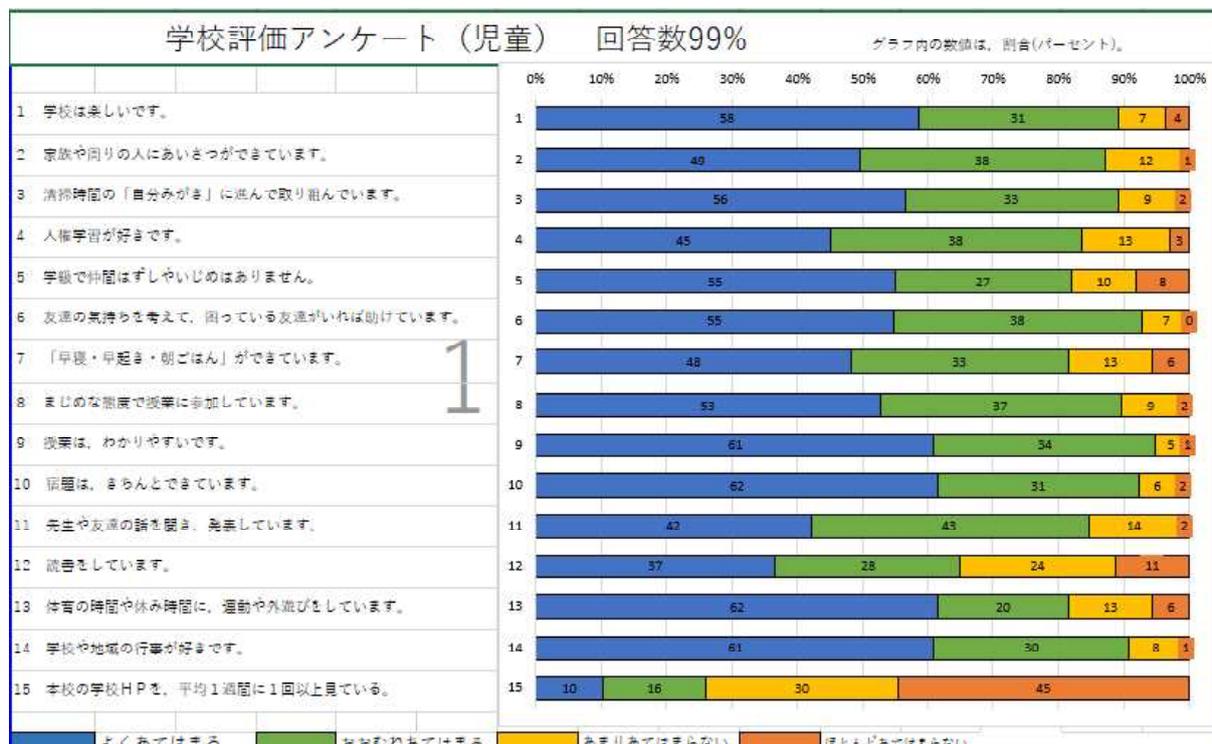
石井町 高原小学校

教育目標：よく学び、心豊かにたくましく生きる児童の育成



令和5年度 学校評価アンケートについての考察

1 児童について



多少の増減があるが、「学校は楽しい」、「やさしく思いやりの態度」、「学力向上、わかる授業」等ほとんど昨年度と同じ項目で肯定的評価が80%以上である。

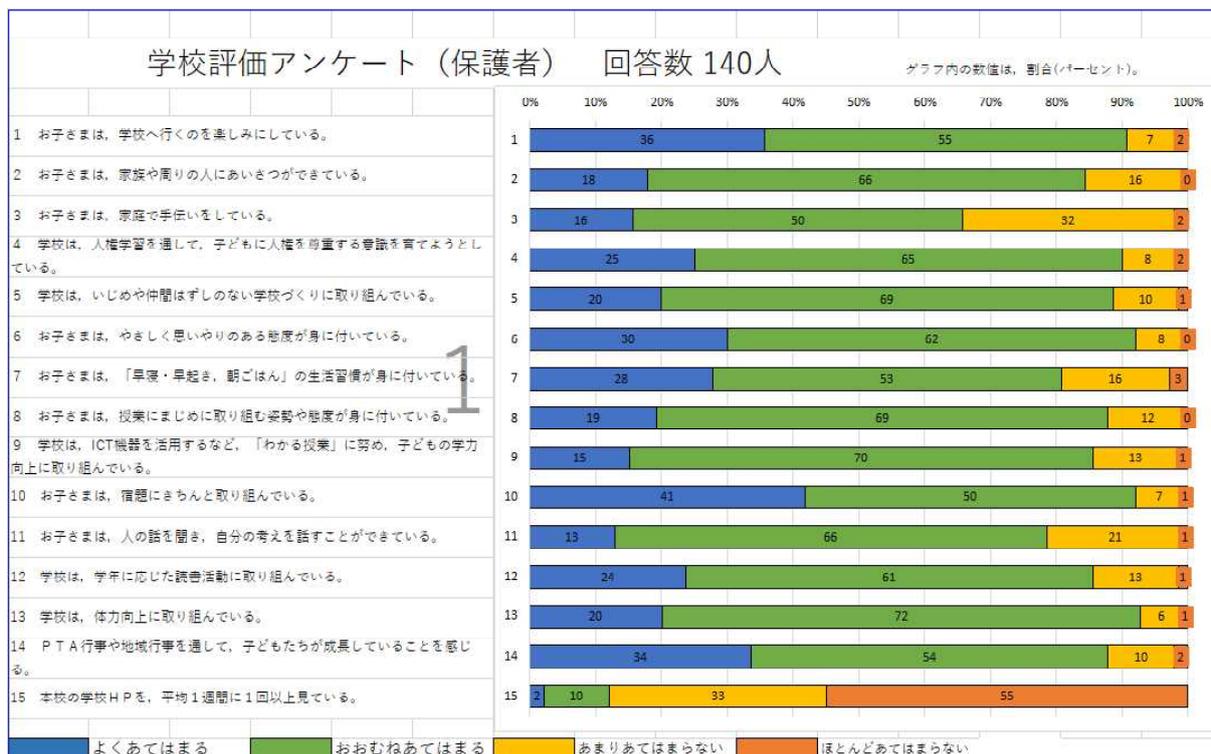
学校では、教育活動全体でポジティブ行動支援を活用した指導を行っている。児童の自己肯定感を高め、自分で考えて正しい行動できる児童の育成に継続して取り組む。

新設した問8「まじめな態度で授業に参加している」では、90%以上が肯定的評価をしている。全学年で共通して指導している学習準備モデルが定着してきたからだと考えられる。

否定的な評価が大きいのは、問12「読書をしている」で35%である。ゲームをしたりYou Tubeで動画等を見る時間と、「読書をする時間」とのバランスを考え、それぞれの時間を両立できる力を育てていくことが必要ではないか。

また、どの項目にも否定的な評価をしている児童が一定数いる。教職員が日頃の児童の様子を観察し、保護者と連携しながら児童理解に努め、誰一人取り残すことなく人権を大切にされた教育活動を実践していく。そして、全職員が一丸となって、児童が安心して学校生活を送れるように、継続して一人一人の児童と向き合っていく。

2 保護者について

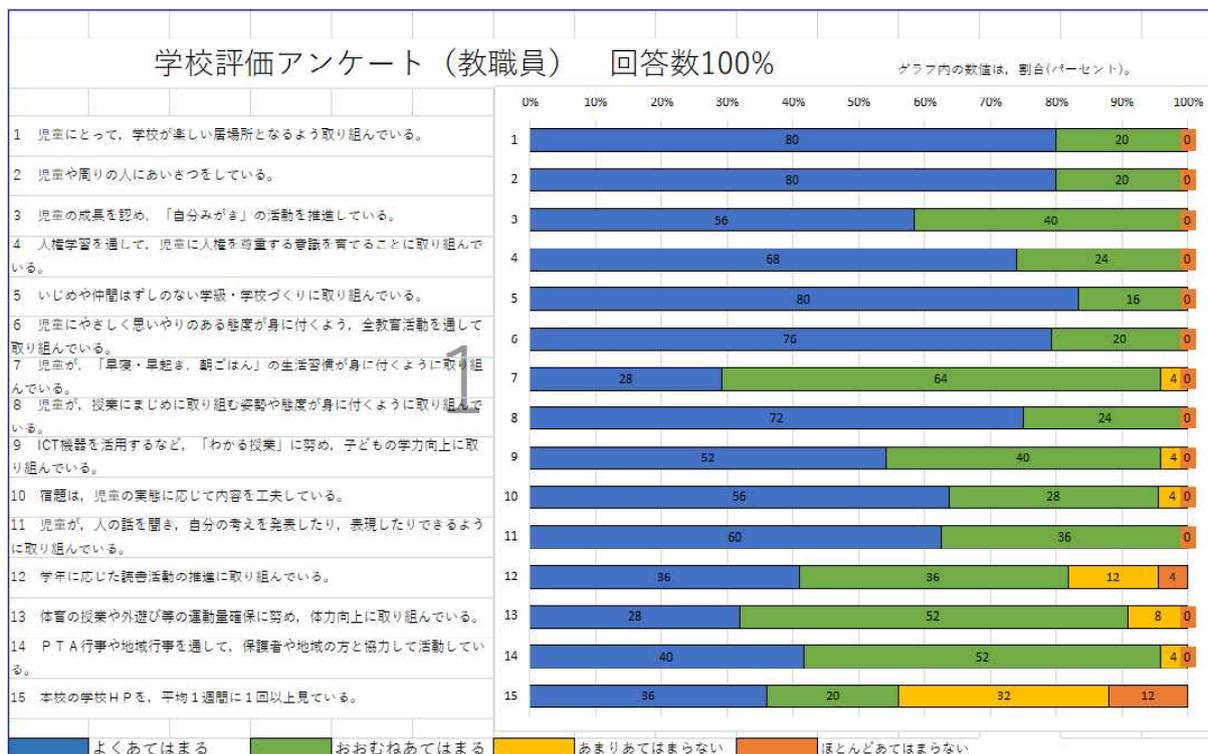


「学校へ行くのを楽しみにしている」、「あいさつができています」、「人権を尊重する意識を育てようとしている」、「いじめや仲間はずしのない学校づくりに取り組んでいる」、「わかる授業に努め、子どもの学力向上に取り組んでいる」、「宿題にきちんと取り組んでいる」、「自分の考えを話すことができる」、「読書活動に取り組んでいる」、「体力向上に取り組んでいる」、「PTAや地域行事を通して、子どもたちが成長していると感じている」の10項目中ほとんどの項目において、昨年度より肯定的評価が10%以上向上している。また、「思いやりのある態度が身に付いている」、「生活習慣が身に付いている」は肯定的評価が80%以上で昨年度と同等の結果であった。新設した問8「授業にまじめに取り組む姿勢や態度が身に付いている」では、肯定的評価が88%であった。

令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が第5類に変更となり、ウィズコロナとして新しい日常が始まった。学校行事等はこれまで行ってきたことを踏襲するばかりではなく、コロナ禍で変更した新しいやり方も参考にしながらよりよいものへと試行錯誤しながら行ってきた。このような中で、多くの項目で肯定的評価の割合が高かったことは、本校教育活動に対しての理解と協力がなければ達成できないものばかりである。

今後も、保護者の皆様や各種団体等関係者の皆様から頂いたご意見も参考にしながら連携を図り、ふるさとを愛する児童の育成と、世界で活躍できる人材の育成を目指し、地域の学校として持続可能な教育活動の創造に取り組んでいく。

3 教職員について



今年度の全校スローガンを「やさしく・かしこく・たくましく、みんなで作る高原小学校」とした。また、児童の豊かな人権感覚を育むために、本校が実践してきた道徳教育の手法を取り入れ、人権教育の3つの柱を「自尊感情の育成」、「学んだことを行動に結び付けていく実践力の育成」、「コミュニケーション能力・態度の育成」とし、学校全体で取り組んできた。

すべての項目で肯定的評価が90%以上であり、教職員一人一人が自分の強みを生かし、児童に確かな学力を付けるため、ポジティブ行動支援を活用し、個に応じた指導を創意工夫しながら教育活動を実践している。また、地域の方や関係諸団体の方をゲストティーチャーや支援者として招き、開かれた教育課程の中で児童が主体的、対話的、協働的な学びを展開することができている。

教職員が自ら研修に取り組み学び続けることを忘れず、教職員としての職責を果たすことができるよう児童や保護者、地域からの信頼に応えるため、実直に教育活動に取り組んでいく。